

# 南京大虐殺・幸存者の証言を聞く会 in 神戸



神戸・南京をむすぶ会は今年も中国より「幸存者」（中国では幸いに生存したという意味でこの言葉をつかいます）をお迎えして証言集会を開きます。むすぶ会は、96年に「南京1937絵画展」を開催したメンバーが作った市民グループで、毎年8月には南京大虐殺の現場等を訪ねるフィールドワークを行なっています。今夏は、南京・台湾を訪問しました。

今年の証言集会は幸存者の王津さんをお招きします。王さんは1931年9月生まれ。1937年12月13日、王さん一家は野菜畑に溝を掘って避難して無事でしたが、家は焼かれ、隣近所の人たちの多くは焼き殺されました。

日本軍はまたやってきて、父と叔父を連行。父はそのまま帰らず、後に殺されて穴に放り込まれているところを母が突き止め、家に連れて帰って葬りました。（証言は裏面を参照ください。）

## ●ビデオ上映「南京・台湾—第17次神戸・南京をむすぶ会訪中の記録」

（撮影・編集 湯本雅典、57分）

## ●証言 南京大虐殺幸存者 王 津さん

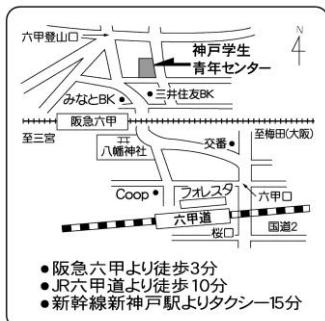
■日時 2013年12月10日（火）午後6時30分

■会場 神戸学生青年センターホール TEL 078-851-2760 地図参照

■参加費 1000円（学生500円）

※幸存者招請のための募金をお願いします。送金先・郵便振替<00930-6-310874 むすぶ会>

(1) 宮内陽子『生徒と学ぶ戦争と平和』(560円)、(2) 成川順『南京事件フォト紀行』(560円)、  
(3) 阪上史子『海南島と大竹』(320円)、(4) DVD「南京・台湾—第17次神戸・南京をむすぶ会訪中の記録」(500円)を発売中です。購入希望者は、送料(80円)とともに上記郵便振替でお送りください。



## 主催:神戸・南京をむすぶ会

（代表／宮内陽子、副代表／門永秀次、林伯耀）

〒651-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

<http://ksyc.jp/nankin/> e-mail hida@ksyc.jp

後援:神戸学生青年センター

## 南京大虐殺幸存者・王 津さんの証言

私は、王津と申します。今年83歳（数え年）になります。1931年9月12日生まれです。その当時からずっと南京中華門外南珍珠巷676号に住んでいます。堀から歩いて2、3分の所です。1937年12月13日、日本兵が雨花台の方からやって来ました。私がはっきり覚えているのは一人の日本兵が帽子をかぶり革靴をはいて家に入ってきた事です。私は7歳だったのでその時は遊んでいました。彼は何も言わず黙って家を出て行きました。

当時の状況では日本兵がやって来ると、「殺しつくし」「奪いつくし」「焼き尽くす」という噂がありました。私の家は藁葺き屋根だったので裏の野菜畠（セリ畠）へ僅かの家財道具を運び出しました。と言うのはセリの作り方が普通、溝を作り土を被せるのです。家が焼かれると住む所が無くなりこの溝に住みました。溝の上に板を被せ一晩其処に寝ました。この12月13日の時点では家は焼かれていません、焼かれる恐れがあるので其処で寝たのです。

翌日の朝目覚めたら、辺りの様子がすっかり変わっていたのです。隣近所のおじさんたちが服は焼かれ裸に近い状態で、数人亡くなっているのが見えました。私の家も近所と繋がって建っていたので焼かれてしまいました。父母と私と近所の何人かの人は大丈夫だったのですが、14日の10時ごろ日本軍が再びやって来て、父と劉志峰おじさんの二人が連行されました。何処に連れて行かれたか分かりません・・・（ごめんなさい、その時の事を思い出すと涙が出来ます）。母は父が家を出る前にお湯を飲ませたかったのですが、池の側には死体がいっぱいでの水も血で赤かったけど、それを汲んで外に有る鍋で沸かそうとしましたが冬なのでなかなか湯が沸きません。父は水もお湯も飲まず連行されて行きました。私は父がいつ帰って来るかと、泣いていました。暗くなってしまって今になっても父は帰ってきません・・・。

当時中華門から雨花台まで賑やかな所でしたが皆逃げ出し、一部の人しか残っていませんでした。私と母も残りました。店も空き家になり米とか油も誰もいない店から盗りました。

生活は、まだ日本兵が行ったり来たりするから、見つからないように半分焼け残った家の窓の下に隠れていて、暗くなったら裏の畠に隠れました。一回日本兵に見つかりました。強姦の噂もあるから怖かった。まだ30代だった母は私を抱っこして逃げました。肩越しに後ろを見ている私に「日本兵はまだ来ているか？」と聞きながら走って逃げました。逃げ切った所もたくさんの死体がありました。畠の隠れ場所まで戻るには何体かの死体を乗り越えて行かなければなりませんでした。南京は占領されていたので保護してくれる政府も無く、長い間その状況でした。毎日の食事の時間とか、何も考えない生活が過ぎました。自分の国もなく助けてくれる人もいません。私たちは父を待ちながら1、2ヶ月そういう時が過ぎました。

ある日父と一緒に連行された劉志峰おじさんが戻っていました。おじさんの話では、日本兵が水桶を欲しがっていたので、父とおじさんと二人で水桶を担いで連行されたそうで、いつも二人で仕事をさせられていたそうです。ある日父が葱か何かで食事の準備をしている時、二人の酔っ払った日本兵が入ってきました。おじさんは敬礼しましたが、父は一生懸命葱を揃えていたので兵隊に気付かずでした。「無視した」と言って父は直ぐに剣で何回も刺され、家の後に在った穴に立てられました。殺されてから2ヶ月は経っていたのですが、母はおじさんにどうしても探したいと頼んでその場所に連れて行ってもらいました。母は父の死体を見つけました。何故分かったかというと、投げ込まれたのは頭が下、足が上方になっていたからです。父の靴と腰紐は、母の手作りだったので、母には直ぐ分かりました。近くの人に手伝ってもらって父の死体を引っ張り出して家に連れて帰り、木の棺に入れて埋めました。今思い出しても悲しいです・・・。

その当時中華門では兵隊もたくさん普通の人も殺されていて、家の近くに在った防空壕も死体がいっぱい詰まっていた、死体収集の時には凄い腐敗の臭いがしました。これが日本兵が来て2ヶ月間ぐらゐの記憶です。

その後は私と母と二人だけの生活でした。私の生まれる前に6人の子どもが生まれたのですがみんな亡くなっていたのです。母は農村の人で裁縫が出来たので縫い物の手伝いをして二人で生きてきました。それから私は2年ぐらいたって塾に入り、小学校、中学校を卒業しました。家は貧しかったけど、私の成績は良く常に1、2番でしたので学費は免除されました。当時は貧しい家の子が中学を卒業する事は珍しい事でした。

19歳の時結婚しました。1951年9月南京紡績工場に採用され1956年共産党員になりました。55歳の定年まで36年間働きました。退職してからも15年間別の仕事に就きました。父がいなかったので、母のために汚い仕事も、重たい仕事も、70歳まで一生懸命頑張ってきました。今の生活も仕事も、共産党に感謝したいです。

夫は1982年、31年前に亡くなりました。母は1989年90歳で亡くなりました。私がずっと働いていたので子育ては全て母がしてくれました。

今は幸せな生活をおくっています。4人の息子はそれぞれ5人家族です。私は三男の家族と暮らしています。長男は大学教授です。4人ともそれぞれ仕事を頑張っています。

皆さん、暑い中歴史を知るために来て頂き感謝しています。私は当時7歳で物事も良く分からなかったし、どれだけ信憑性があるかも分からなかったので記念館で証言するように誘われても断ってあまり此処には来ませんでした。今日が一番詳しく話しました。時間の前後も崩れていてごめんなさい。謝謝。

（第28次銘心会南京報告集より抜粋）

